

科目名	クリティカルケア看護学特論 Theories of Critical Care Nursing			担当教員 (研究室番号)	玉田 章 (307) 永見 桂子 (102) 木戸 芳史 (402)			教員への連絡方法 (メールアドレス)			
履修年次	1年次前期	科目区分	支持科目	選択区分	コース必修	単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	科目等履修生	可
科目目的	衝撃的な体験に際しての人間の反応や立ち直りの心身の過程を理解し、クリティカルケアが必要な患者およびその家族に対して適切な危機介入やセラピーを実施するための理論を修得する。また、人間の内的世界やその存在意義についても考察し、看護の役割・機能について論述する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルケアの概念について理解することができる。 ・成人、母性、精神の各領域におけるクリティカルケアについて理解できる。 ・成人、母性、精神の各領域における身体的側面、精神的側面からのアセスメントの視点が理解できる。 ・危機理論、危機モデルを学習し、危機介入の方法につなげることができる。 ・クリティカルケアにおける生命倫理のあり方と法との関係について考えることができる。 										
成績評価方法(基準)	レポート(50点)、プレゼンテーション(30点)、出席状況(20点)										
教科書	特に指定しない。										
参考書等	必要時に紹介する。										
受講者へのメッセージ											
備考											
回	学習項目			学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	クリティカルケアの定義① クリティカルケアを必要とする人と看護の役割			衝撃的な体験に際しての人間の反応や病態および生理的変化、身体機能・生活行動の変化など回復過程を理解し、患者の意思決定や生命倫理を尊重した医療・看護のあり方や看護介入の方法論について論述する。 クリティカルケア看護の構成要素を踏まえ、集中的ケア・緊急的ケアの必要な状況において、迅速で的確な臨床判断、高度な専門技術に基づいた看護を提供する意義について考察する。				玉田	講義		
2回	クリティカルケアの定義② 母性看護学領域におけるクリティカルケア			日本における周産期医療の変遷を母子の健康指標からとらえ、周産期医療の抱える課題と母性看護学領域におけるクリティカルケアの意義について考察する。 アタッチメント理論、絆理論、愛着理論、役割理論、家族理論、セルフケア理論などを踏まえ、周産期にある母子とその家族をアセスメントし、健康問題の特性を考察する。				永見	講義		
3回	クリティカルケアの定義② 精神看護学領域におけるクリティカルケア			精神看護学領域における対象理解のための支持理論として、ストレス理論、コーピング理論、危機理論、発達理論、人間関係論について論述し、クリティカルケア看護の役割と精神的側面への介入について考察する。				木戸	講義		
4回	クリティカルな状況にある人の特徴 身体的側面のアセスメント①			発症様式の特異性、疾病構造など救急患者の特性を踏まえ、クリティカルな状況にある人の身体面のアセスメントの視点と標準化されたスケールの活用について論述する。				玉田	講義		
5回	クリティカルな状況にある人の特徴 身体的側面のアセスメント②			身体機能の悪化への予防的介入や治療・処置等に伴う合併症・二次障害への対応においての看護の役割を考察する。				玉田	講義		
6回	クリティカルな状況にある人の特徴 身体的側面のアセスメント③			発症による生活行動の変化に応じた基本的ニーズの充足、その人らしさの維持、回復力の向上を目指したクリティカルケア看護の役割を考察する。				玉田	講義		
7回	クリティカルな状況にある人の特徴 精神的側面のアセスメント①			職業性ストレスモデル、心理学的職場ストレスモデルなどを用いて、クリティカルな状況にある人の精神的側面をアセスメントする。				木戸	講義		
8回	クリティカルな状況にある人の特徴 精神的側面のアセスメント②			クリティカルな状況にある人の精神的側面のアセスメントから健康問題の特性について考察する。				木戸	講義		
9回	危機理論と危機介入 看護における危機理論と危機介入			医療の場での危機に影響を及ぼす要因として危機を引き起こす出来事とその受け止め方、ソーシャルサポート、コーピングに着目し、危機理論への理解を深め、フィンク、コーン、アギュレラの「危機モデル」の特徴と「危機モデル」の適応となる事例について考察する。				玉田	演習		
10回	危機理論と危機介入 母性看護学領域における危機理論の活用			妊娠期の異常などマタニティサイクルにおける状況的危機や更年期障害など女性のライフステージの移行期における発達の危機について概説し、危機をもたらす喪失と喪失に伴って起こるグリーフワークについて考察する。 危機理論を活用した母性看護学領域の研究例について検討し、研究から得た知識の実践への発展について考察する。				永見	講義		
11回	危機理論と危機介入 精神看護学領域における危機と危機介入			精神疾患により危機状態にある人の安全を保護するための法律及び制度を学び、精神保健福祉法第23条による強制入院事例を検討する中で、求められる看護対応について考察する。				木戸	講義		
12回	生命倫理 クリティカルケアにおける人の生と死			自己の死生観について文章にまとめ、死への関心とその社会的文化的背景を考察するとともに、「死ぬ瞬間ー死とその過程についてー」を検討する。				玉田	演習		
13回	生命倫理 母性看護学と生命倫理			リプロダクティブ・ヘルスの諸問題と関連法規を踏まえ、女性の自己決定と生命倫理について、事例を用いて倫理的問題を分析する。 生殖補助医療と生命倫理、生殖医療技術の利用における自己決定と倫理的ジレンマについて考察する。				永見	講義		
14回	生命倫理 精神看護と生命倫理			自死を取り巻く社会の現状を理解し、自殺予防の取り組み、自殺未遂者へのセラピーについて学ぶ。				木戸	講義		
15回	自己決定権 インフォームドコンセントの定義とクリティカルケアにおける自己決定の現状			臨床現場において医療の主体であるべき患者やその家族が疎外感や不信感を抱き、医療に対する信頼感の低下につながりかねない現状を分析的にとらえ、インフォームドコンセントのあり方について考察する。				玉田	演習		